

## 人材育成の仕組みづくり

こじつて

米田 登美子



登別市総合計画第3期基本計画の施策の一つである「雇用の安定と快適な就業環境づくりの推進」について、

若年者、女性、高齢者および障がい者それぞれの就職支援の状況や、登別職業訓練協会、日本工学院北海道専門学校との連携について質問しました。

市は、この地域に就業してもらうため、公共職業安定所や北海道・近隣市町と連携し、高校卒業予定者を対象とした企業説明会や就職面接会、高校生インターンシップ事業、若年者等キャリアアカウンゼリング事業を実施しています。また、市民の就業や快適な就業環境づくりを推進するため、公共職業安定所と連携し、雇用情報の提供や労働相談事業を実施しています。

登別職業訓練協会との連携については、広報で生徒募集記事を掲載しているほか、近隣市の企業からも生徒を募集するため、市と協会職員が関係機関や企業を訪問しています。また、平成27年9月に日本工学院北海道専門学校と協定を締結し、市が発注した建築現場の見学・体験や、市職員を特別講師として派遣しています。

## 地域公共交通について

佐々木 久美子



バス路線の課題と利用状況の推移、今後の展望について。

は前年より4%減少している。今後は、乗車場所や運行時間など、利便性が良くなることにより、利用するようになる市民や、移動に不便を感じている高齢者などの利用を促進することが大切と考える。

**質** 住民・利用者の意見や市民二二の把握を行っているか。

**答** 市内バス路線に関するアンケート調査は実施していない。今後は地域住民の二二調査や意見交換の場など手法を含めて検討していく。

**質** 今後の地域公共交通の考え方は。

**答** 地域公共交通は市民の生活に欠かせないものであり、路線や運行時間、乗降場所など利便性の向上により、バスを利用する市民に積極的な利用を促すことにより、結果的に路線の確保が図られるものと考えている。今後は、路線バスに限らず、これに代わる交通手法など、地域、行政、交通事業者などが協働して、公共交通のあり方について検討を進める必要があると考えている。

## オートキャンプ場設置と児童虐待防止の考え

二瓶 秀幸



平成27年度、外国人観光客数が大幅に伸びた一方、国内観光客は宿泊予約が取りづらいう傾向にあり、せっかくの交流人口増や経済効果の機会を逃すことになっている。

そこで昨今、全国的にブームとなっているキャンピングカーでの旅行者を呼び込む新たな観光拠点としてオートキャンプ場を設置してはどうか。

**答** 市が主体となりオートキャンプ場を整備する考えはないが、民間事業者などで経営する場合は事業者と協議の上、市としてできることは協力していく。

**質** 児童虐待の事件が頻りに報道されており、本市や苫小牧市でも虐待死の事件が起こったことは記憶に新しい。最近の心理的虐待の増加や制度改定に対する市の対応、児童虐待ゼロを目指す考えは。

**答** 子どもに接する学校や保育所などでは子どものSOSに気付けるよう日々から信頼関係を形成することが重要。4月から施行される児童福祉法などの改正では、子育て支援により対応すべき事案は児童相談所から市への送付の規定が新設される。

## 市立図書館の施設整備・運営について

千田 文孝



市立図書館は、昭和47年に供用開始し44年が経過しています。狭くて本を整理するのも重労働なため、他自治

体の図書館と比較し質問しました。

**質** 市立図書館の施設整備方針、市役所との合築効果、青少年会館の2階利用は。

**答** 図書館の増改築は、公共施設整備方針において隣接する青少年会館の利用状況を考慮し検討することとしている。市役所と合築した場合、駐車場の拡大や市政資料の充実、市の事業と一体となった展示が望めるが、開館時間などの施設管理が課題である。青少年会館の2階は本の重さに耐え得るか構造上難しいが、和室は読み聞かせに利用可能と考える。

**質** レファレンスサービスや恵庭市のまぢゅう図書館に対する考えは。

**答** レファレンスサービスについては、図書館のPRにもつながることから、検討していく。まぢゅう図書館については現在考えていない。

**質** 新たな登別市が望む図書館像の検討は。

**答** 本市にふさわしい「知の拠点」となる図書館ビジョン策定を目指し、各種懇談会、講演会などで市民の声を集めたい。

※レファレンスサービス…図書館司書が調べものの参考になる本の紹介や、最適な情報を探し出す手伝いをするサービス。